

# イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年7月1日作成 (株)新出光

## 【月次概況】

- 第1週、週末6/3のWTI原油は、先週比3.80ドル高の118.87ドルとなりました。欧州連合(EU)は、ウクライナに侵攻したロシアへの追加制裁を正式決定しました。ロシア産の原油を6か月以内、石油製品は8か月以内に輸入停止することが柱となります。
- 第2週、週末6/10のWTI原油は、先週比1.80ドル高の120.67ドルとなりました。8日米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計では、ガソリン在庫は80万バレル減と取り崩しとなりました。全米ガソリン平均価格が過去最高値を更新したにもかかわらず、ガソリンの需要は依然として高くWTI原油は、122.11ドルまで上昇しました。しかし10日米労働省が発表した5月の米消費者物価指数(CPI)は前年同月比8.6%上昇し、燃料消費の先行きに対する警戒感及びインフレ高が再燃する中、リスク投資意欲の後退を反映して米株価が急落したため原油も売られました。
- 第3週、週末6/17のWTI原油は、先週比11.11ドル安109.56ドルとなりました。米連邦準備制度理事会(FRB)は今週の連邦公開市場委員会(FOMC)で、0.75%の大幅利上げを決定しました。欧州でもイングランド銀行、スイス銀行がすでに金融引き締め方向へかじを切ったのに加え、欧州中央銀行(ECB)も7月の利上げに踏み切る方針です。市場では急激な金融引き締めにより景気が後退するとの懸念が台頭しました。
- 第4週、週末6/24のWTI原油は、先週比1.94ドル安の107.62ドルとなりました。インフレ抑制を最優先課題と強調したパウエル連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言後、景気悪化に伴う需要減退を懸念し原油は売られました。しかしOPECプラスは30日に開く会合で、月初に合意した小幅増産方針を維持する見通しと伝わる中、足元の需給逼迫懸念が再燃しました。
- 第5週、月末6/30のWTI原油は、先週比1.86ドル安の105.76ドルとなりました。米国が積極的なペースで利上げを行うとの観測が広がる中、景気減速懸念も強まり原油が売られました。7月4日の米独立記念日に伴う連休を控えているほか、四半期末ということも重なり、利益確定売りや持ち高調整目的の売りが出やすかったとの指摘がありました。

6月平均	WTI原油	114.34ドル	前月比	5.08ドル	為替 1ドル	134.93円	前月差	5.12円
------	-------	----------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
6/1~6/1	37.3	+3.5	+3.5
6/2~6/8	36.7	+4.0	+4.0
6/9~6/15	38.8	+4.0	+4.0
6/16~6/22	41.4	+6.5	+6.5
6/23~6/29	40.5	-1.5	-1.5
6/30~6/30	38.4	-8.5	-8.5

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2022年1-3月C重油決定価格	76,550	78,550	【76,550(メニュー)+2,000(プレミアム)】
2022年4-6月C重油仮価格	102,560	107,770	【102,560(メニュー)+5,210(プレミアム)】	
2022年4-6月C重油決定価格	105,210	110,110	【105,210(メニュー)+4,900(プレミアム)】	
決定価格1-3月比	28,660	31,560		

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	A重油	
2022年1-3月C重油決定価格	84,300	94,400
2022年4-6月C重油仮価格	104,200	107,400
2022年4-6月C重油決定価格	105,300	114,800
決定価格1-3月比	21,000	20,400

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	22/5	9桁速報	87,603	107.78	129.22	4,357
	22/6	最終予測	92,651	113.17	130.15	5,048
	22/7	展望	94,031	119.59	125.00	1,380
	22/8	展望	92,157	122.09	120.00	-1,874

## 【次世代エネルギー】<世界初、液体アンモニア100%燃焼によるガスタービンで、CO2フリー発電を達成 >

この度IHIは、2,000kW級ガスタービンで液体アンモニアのみを燃料とするCO2フリー発電を実現し、燃焼時に発生する温室効果ガスを99%以上削減することに成功しました。アンモニア(NH<sub>3</sub>)は、炭素(C)を含まないことから燃焼時にCO<sub>2</sub>を排出しない燃料として既存発電設備で利用することが可能です。IHIで取り組んでいるガスタービンの燃焼器内に液体アンモニアを直接噴霧する燃焼方式は、貯蔵タンクからガスタービンまでの供給システムの簡素化や制御性向上など社会実装に向けた利点を有します。一方で液体アンモニアは、天然ガスやアンモニアガスよりも燃焼性が低く燃えにくいいためアンモニア混焼率を高めた際安定的なアンモニア燃焼と排気ガス中の温室効果ガスの排出抑制が課題となります。これまでは70%を超える高いアンモニア混焼率での運転時に、温室効果ガスの一種でありCO<sub>2</sub>の約300倍の温室効果を持つ亜酸化窒素(N<sub>2</sub>O)が発生しCO<sub>2</sub>排出量を削減できても温室効果ガス削減にはつながらないことが課題となっていました。

この度IHI横浜事業所の2,000kW級ガスタービンに、新たに開発した燃焼器を搭載して試験を実施した結果70~100%の高いアンモニア混焼率でも温室効果ガス削減率99%以上を達成し液体アンモニアのみの燃焼で2,000kWの発電ができることを実証しました。今後の開発では、さらにNO<sub>x</sub>を削減していくとともに運用性の向上や、長時間の耐久性評価を行い2025年の液体アンモニア100%燃焼ガスタービン実用化に向けた取り組みを進めていきます。

出典 ①<https://www.jiji.com/jc/article?k=000000042.000089117&g=>

②<https://www.drone.jp/news/2022061613322053668.html>

## 【7月価格変動要因】

- 需要: 北京や上海が、経済活動を再開し中国の需要は急速に回復しつつあります。一方で足元の原油価格高騰の影響が消費者のマインドを冷えこませており中長期的には世界的な需要減少の可能性も懸念され始めています。
- 供給: OPECプラスは、従来の決定通り7~8月の増産幅をそれぞれ日量64.8万バレルに増産する予定です。しかし開催されたG7では、サウジ、UAEともに増産余力がない可能性があるとの指摘されています。従ってOPECの供給は計画をさらに下回る可能性があります。またリビアも国内情勢の影響で生産力が半分程度に落ち込んでいます。
- 在庫: ドライブシーズン入りした米国の原油在庫は引き続き5年で最も低い水準に留まっています。29日、EIA 週報で原油在庫が前週比 276万 bbl の減少となった一方、ガソリンとディステイレートの在庫がそれぞれ約 260 万 bbl 増加となったことを受けて製品主導で下落する動きとなりました。
- リスク資産: 6月15日に開催されたFOMCでは、事前の予想を上回る0.75%の政策金利引き上げが決定されました。金利引き上げを先読みする格好で株式相場は6月上旬に大幅に下落しました。株安を景気減速のシグナルと捉える一部投機筋のコモディティ売りに今後も警戒が必要です。

## 【7月価格変動要因】

(単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	125	123
Average	117	110
Low	110	103

日付	国	7月経済指標カレンダー	日付	国	7月経済指標カレンダー
1	欧	6月消費者物価指数 (HICP、速報値)	19	欧	6月消費者物価指数 (HICP、改定値)
1	米	6月ISM製造業景況指数	21	欧	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利
6	米	6月ISM非製造業景況指数	21	欧	ラガルド欧州中央銀行 (ECB) 総裁、定例記者会見
6	米	米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨	26	米	6月新築住宅販売件数
7	米	6月ADP雇用統計	27	米	米連邦公開市場委員会 (FOMC) 終了後政策金利発表
8	米	6月非農業部門雇用者数変化	27	米	パウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長定例記者会見
8	米	6月平均時給	28	米	4-6月期 四半期実質国内総生産 (GDP、速報値)
8	米	6月失業率	29	欧	7月消費者物価指数 (HICP、速報値)
13	米	6月消費者物価指数 (CPI)	29	欧	4-6月期 四半期域内総生産 (GDP、速報値)
15	米	6月小売売上高	29	米	6月個人消費支出 (PCEデフレーター)

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。